

5. 土壌調査の資料がほしい

1) 土地分類基本調査 (国土調査)

実施機関は国土交通省で、5万分の1の地形図をもとに、図幅単位で作成し、図示しています(図3 土地分類基本調査の表紙)。

長野県の進行状況は約60～70%終了していますが、全国的にみて低く、他県ではほとんど終了しています。また県内には土壌調査ができる職員は2～3名程度で、報告書の作成や成果の活用などの上から**人員の早期養成が必要です**。職員の確保は成果を活用する上で欠かせない事項であり、せっかくの成果が宝の持ち腐れにならないようにしたいものです。

成果の現況を図4に示しました。利用してください。



図3 土地分類基本調査の表紙

土地分類基本調査の実施状況
(縮尺1/50,000)



(長野県の国土調査：平成16年度長野県農政部農村整備課 平成16年)

図4 土地分類調査の実施状況

2) 民有林土壌調査事業 (適地適木調査事業)

長野県の民有林適地適木調査事業は1～17報あり、長野県林務部発行で終了しています。図面の縮尺は5万分の1です(図5)。

第1報：下伊那南西部地区
第3報：佐久南部地区
第5報：下伊那北部地区
第7報：更埴地区
第9報：上田地区
第11報：上高井地区
第13報：安曇北部地区
第15報：長野地区
第17報：松本地区

第2報：下伊那南東部地区
第4報：木曾北部地区
第6報：安曇南部地区
第8報：佐久北部地区
第10報：木曾南部地区
第12報：高水地区
第14報：上伊那地区
第16報：諏訪地区



図5 民有林適地適木調査の表紙

3) 国有林野土壤調査事業

実施機関は林野庁・各管理局です。縮尺2万分の1で、各管理局により管内全域完了や、林業対象地のみなどがあります。

日本の森林土壌の分布は、民有林で褐色森林土78%、黒色土12%、国有林で褐色森林土72%、黒色土7%です(有光一登：森をささえる土壌の世界 林業改良普及双書152 2006)。

長野県の国有林では褐色森林土62%、ポトゾル12%、黒色土12%です(長野営林局計画課：長野営林局管内の森林土壌 1965)。